

2024年度
学校関係者評価委員会



学校法人シモゾノ学園
大宮国際動物専門学校

【 2024年(令和6年) 8月28日 】

1. 学校関係者評価委員会 について

■ 学校関係者評価委員

- | | |
|---|----------|
| <input type="checkbox"/> 狩野 幹也 氏 (狩野動物病院 院長) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 太田 宗雪 氏 (株式会社 EDUWARD Press 代表取締役社長) | 企業等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 國分 達夫 氏 (東京都立 晴海総合高等学校 元校長) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 齊藤 勉 氏 (多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問) | 高校等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 義名 由梨 氏 (卒業生) | 卒業生等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 佐藤 美紀 氏 (保護者) | 保護者等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 黒田 侑加 氏 (卒業生) | 卒業生等評価委員 |
| <input type="checkbox"/> 大平 久美子 氏 (保護者) | 保護者等評価委員 |

■ 2024年度 第1回 学校関係者評価委員会

- 2024年7月24日(水) 15:00から17:00 【大宮国際動物専門学校 会議室 (対面方式)】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価の概要説明
 - ③ 委員のご紹介
 - ④ 委員長の選任
 - ⑤ 自己点検・評価のご報告
 - ⑥ 意見交換等
 - ⑦ 次回までの流れ
 - ⑧ 閉式の辞

■ 2024年度 第2回 学校関係者評価委員会

- 2024年8月28日(水) 15:00から17:00 【国際動物専門学校 会議室 (対面方式)】
 - ① 開式の辞
 - ② 学校関係者評価のまとめ
 - ③ 学校関係者評価のまとめを踏まえた、意見交換等
 - ④ 閉式の辞

2. 学校関係者評価 について

■ お願いさせていただきたい内容 について

- 本学園は、「高等教育の修学支援新制度」に機関認定されていることに加え、文部科学大臣による新たな専修学校の専門課程である「職業実践専門課程」に認定候補学科がその認定を受け、教職員一丸となって日々の教育活動に心を込めて務めております。

これらの認定要件において、より質の高い知識・技術・職務実践能力等を学生が身に付けられるように、社会・企業等と密接な連携体制を確立し、教育活動を主とする学校運営の検証・改善を行うことを目的とした「学校関係者評価委員会」を開催することが求められております。

つきましては、本学園が行った自己点検・評価をもとに昨年度の学校運営状況をご説明いたしますので、本学園の教育や学校運営の質の向上に向けたご意見・ご要望などをお伺いできれば幸甚に存じます。

■ 自己点検・評価 について

- 専修学校の質の保証・向上における取り組みの1つとして、「自己点検・評価」と「学校関係者評価」と「情報公開」が様々な取り組みにおいて推奨されております。自己点検・評価は、文部科学省から評価表が例示されているもの、各専門分野における教育活動状況の違いや地域性による学校運営活動状況の違いは多岐に渡って異なっていること等を踏まえ、文部科学省の委託事業として、「自己点検・評価における共通の評価基準モデル」の策定が2020年度より取り組まれました。

本学園では、それらの取り組みにおいて例示されている評価の仕方を踏まえ、本学園の教育と学校運営の質の向上につなげられる評価項目を設定し、各評価項目をどちらかといえば適切なのか不適切なのかを少しでも明瞭化できるように4段階評価にて行うことといたしました。

また、4段階評価の根拠資料となるエビデンスは、多量になりすぎることを抑制すべく、内容を厳選して多くて3つ程度までとしております。

3. 学校法人シモゾノ学園の基本的な考え方 について

■ 教育理念

- 「心を大切に 感謝の気持ちで自然を思い 人と動物の真の共存共生」
- 教育理念「人と動物の真の共存共生」を実現すべく、社会・企業等から高い評価が得られる人財・職業社会人を育成する教育事業を行う。

■ 基本の方針

- 本校の 入学者の受入れや入学者に求める資質についての基本的な方針「Admission Policy (アドミッションポリシー)」は、次のとおりとする。
 - (1) 本校が求める 基礎学力 と 倫理観 を備える者。
 - (2) 将来の職業として、動物関連業界に強い関心と熱意のある者。
 - (3) 動物愛護 と 動物福祉 の精神に深い理解を持つ者。
- 本校の 教育目標に対する、教育課程や教育方法についての基本的な方針「Curriculum Policy (カリキュラムポリシー)」は、次のとおりとする。
 - (1) 学生が専門的な知識や技術に加え、豊かな人間力・適切な社会人力・多様な資質を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる人財となれるように、教育目的とする育成人財像を掲げ、教育目標を「専門性の追求、道徳性・人間性の育成、動物福祉の実践」の3つに区分け、適切な 教育課程 (学内授業・学内外研修・企業連携研修 等) と 教育方法 にて 学生の立場に立った教育を行う。また、PDCAサイクルに則り、定期的な学習成果の測定等の検証・改善を通し、学生が教育目標を達成できるように取り組む。
- 本校の 卒業認定や学位授与についての基本的な方針「Diploma Policy (ディプロマポリシー)」は、次のとおりとする。
 - (1) 人生を生き抜く多様な力 と 自分と周りの命 (人生) を大切にする心 を持ち、心豊かに生きて生きる資質を持つ者。
 - (2) 人と動物の真の共存共生について、自身の考えを持つとともに他者の多様な考えにも理解を示せる者であり、主体的・積極的に取り組み続けられる者。
 - (3) 本校に所定の修業年限以上在学し、所定の 授業科目 及び 授業時数 を履修した者について、校長は校長会議の議を経て卒業を認定し、学位を授与する。また、履修の認定について、試験 等の成績に基づいた厳格な成績評価を行い、校長は校長会議の議を経て、これを認定する。

■ 教育方針

- 「専門性の追求」を教育方針の1つとし、動物を取り巻く環境をしっかりと理解し、動物業界で求められる知識・技術を追求し、戦力となる人財を育成します。
- 「道徳性・人間性の育成」を教育方針の1つとし、感謝の心を失わず、挨拶をはじめコミュニケーション能力の高い、品格の備わった人財を育成します。
- 「動物福祉の実践」を教育方針の1つとし、動物の生命 及び 尊厳を守る精神を養い、自然・環境・動物との共存共生を実践し広く社会に貢献できる人財を育成します。

■ 行動指針

- 各部署の役割の遂行とグループが一丸となって各部署の情報を共有し互議互助で心を1つにして教育理念実現に向け邁進します。

4. 自己点検・評価 の 評価方法 及び エビデンス について

■ 評価は、4段階で行う。

- 評価項目に対し、専修学校ガイドライン 及び ISO29993・21001 を踏まえた評価指標に則って評価を行う。
- 【3-15】・【4-4】・【5-9】・【11-1】について、本校の取り組み指針を踏まえ、本校は評価指標の3評価を4評価とする。
- 【3-17】・【6-7】・【8-3】・【9-4】について、評価指標の最高値は3評価までであるが、表記は4評価とする。

■ エビデンスは、評価の根拠となる資料を多くて3つ程度まで選ぶ。

1. 教育理念・目標		評価	エビデンス
1-1	学校の理念や社会のニーズを反映する教育目的・育人財像は明確に定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか。)	4	学則、学校案内書、ホームページ「挨拶/教育理念ページ」、教育課程編成委員会 議事録
1-2	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4	学校案内書、教育課程編成委員会 議事録、卒業生状況調査書
1-3	学校の理念・目的・育人財像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、保護者会 案内・説明PP・レジュメ、学校関係者評価委員会 議事録

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、質の向上に取り組むため、社会のニーズを正確に把握する手段を構築する。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 及び 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。

2. 学校運営		評価	エビデンス
2-1	教育方針や教育目標等に沿った運営方針が策定されているか。	4	事業報告書(学校HP 情報公開)、事業計画共有会レジュメ、教育課程編成委員会 議事録
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。(教務・財務の意思決定システム制度は整備されているか。)	4	寄附行為、理事会・評議員会 議事録、学園本部会議 議事録、組織分掌図
2-3	学校運営に関する(事業計画・予算編成・教育活動等)に対する評価を結論として取りまとめた評価報告書を作成しているか。	4	学校関係者評価 報告書、学校HP(画面の画像)、教職員研修 資料(兼任教職員 全体会 2023年度)
2-4	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化され、人事・給与に関する規程も含め、有効に機能しているか。	4	寄附行為、組織分掌図、就業規則、理事会 議事録
2-5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	学校運営指針、組織分掌図、学校関係者 評価 報告書
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	教育課程編成委員会 議事録、学校関係者 評価 報告書、学校HP(情報公開ページ 画面の画像)

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【2-4】(4/4評価) について、組織分掌図の学内共有状況に関するエビデンスの一部追加を提案した。
 - 内部監査における現状分析等から、社会情勢等を踏まえ、カスタマーハラスメントに関する指針や教職員研修等の取り組みの必要性を検討することを提案した。

3. 教育活動		評価	エビデンス
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教職員クラブ、学校案内書、学生の手引き、シラバス
3-2	教育理念・育人財像・業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	学生の手引き、情報公開(様式4)、シラバス
3-3	教育理念・到達目標に沿って、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、情報公開(様式4)
3-4	講義及び実習に関するシラバスは作成されているか。	4	シラバス、シラバス・教育担当者のまとめ
3-5	学生によるアンケート等をもとに、適切に授業評価を実施しているか。	4	授業アンケート(学生)、学外事前・事後研修アンケート(学生)
3-6	適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか。(教育内容及びその評価方法・手段・スケジュールは適切か。)	3	専任教職員セルフチェック、兼任教職員セルフチェック、授業アンケート(学生)
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	学校関係者評価委員会 議事録、教育課程編成委員会 議事録、企業連携実習 評価表
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	学生の手引き、実技試験評価表、校長会議資料(進級・卒業判定関連)
3-9	人財育成目標の達成に向け、各授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	学校運営指針(コアコンピテンシー)、教職員コンピテンシー
3-10	動物看護職関連分野との連携による優れた教員(専任・兼任共に)を確保するための活動が行われているか。	3	加盟団体一覧、企業連携研修 契約書・報告書・評価表、教育課程編成委員会 議事録、VN養成所 年次報告書
3-11	関連分野における先端的な知識・技術等を習得するための研修や教員の指導力育成等の資質の向上のための取り組みが行われているか。	4	企業連携研修 契約書・報告書・評価表、教職員研修 報告書、学科会議 議事録
3-12	カリキュラムは、自主学習を含む学習時間・学習方法を学生の生活時間や学習時間に配慮して設計されているか。	4	カリキュラム、学生の手引き、年間スケジュール
3-13	講義に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラム が実施されているか。	4	カリキュラム、情報公開(様式4)
3-14	実習に関し、定められたカリキュラム 若しくは それに準じたカリキュラム が実施されているか。	4	カリキュラム、情報公開(様式4)
3-15	講義・実習等の受講前に学生の能力等に不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか。	4	募集要項、入試面接(入試記録)、学生の手引き
3-16	動物を使用する実習・実験等に関し、これらに関する倫理や動物の福祉についての規則やマニュアルが整備され、公表されているか。	4	学校飼育動物管理規程、学生の手引き、学内掲示物(アニマルウェルフェア・動物の逸走防止対策)
3-17	学生の成績情報等への閲覧制限が適切に設定されているか。	4	個人情報管理区分、みんなで取り組む個人情報の管理、学籍管理

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 一般的に適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム①
→ 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

4. 学習成果		評価	エビデンス
4-1	年度末における就職率の向上が図られているか。	3	就職率データ(過去3年間)、未内定者リスト、保護者会 資料
4-2	資格取得率の向上が図られているか。	4	愛玩動物看護師 国家試験補講スケジュール、美容学科会議 議事録、ステップアップ試験実施要項(一部抜粋)
4-3	入学者に対する卒業率はどうか。	3	情報公開(様式4)、事業計画 PDCA会議(学習成果状況報告データ)
4-4	在校生の社会的な活動に対し、それを把握し、評価する体制があるか。	4	学生の手引き、ボランティアマイル制度、ボランティアマイル表彰者リスト
4-5	学生の学習成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか。	4	クレド、学生の手引き、校長会議 資料(進級・卒業判定関連)
4-6	教育・訓練 及び 実習 等を委託する場合、その目的・要望事項・評価項目等の依頼を明確にしているか。	4	企業連携実習 契約書、実習依頼状、実習評価表
4-7	動物看護総合実習等の企業と連携した実習について、依頼先と十分なコミュニケーションをとり、その内容・評価方法等を事前に定め、評価しているか。	4	動物看護総合実習 依頼書、動物看護総合実習 評価表、企業連携実習 評価表

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。

5. 学生支援		評価	エビデンス
5-1	進路や就職に関する支援体制が整備され、学生や保護者等に周知されているか。	4	学生の手引き、保護者会資料
5-2	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか。	4	年間スケジュール(健康診断スケジュール)、提携病院 契約書、救急技能講習 受講リスト
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	募集要項、学生の手引き、下園龍二記念奨学生(名簿)、家族入学支援奨学生(名簿)
5-4	学生相談に関する体制は整備されているか。(相談窓口が設置されているか。)	4	学生の手引き、カウンセリングルーム 案内、カウンセリング記録、学生相談 報告書
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	学生の手引き、課外活動・サークル活動申請書、ボランティアマイル制度
5-6	学生の生活環境への支援体制は整備されているか。	4	シモンソ学園のサポート制度、学校案内書(学生会館案内・学生マンション案内)、学生の手引き
5-7	保護者との連携は適切に行えているか。	4	学生の手引き、保護者会案内書、学校HP(在校生用ページ)、学生相談 報告書
5-8	卒業生への支援体制は整備されているか。	4	卒業教育セミナー 案内書、学校HP(卒業生向け求人票ページ)、MyID 案内物
5-9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	募集要項、学校運営指針、学生相談 報告書
5-10	高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取り組みが行われているか。	4	職業体験受け入れ関連書類、学校見学受け入れ関連書類、高校ガイダンス一覽、

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム①
→ 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

→ 【5-1】(4/4評価)、【5-4】(4/4評価)、【5-7】(4/4評価) について、エビデンスを一部変更することを提案した。

6. 教育環境		評価	エビデンス
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか。	4	授業時間割り表、施設使用割当て表、組織分掌図
6-2	防災に対する体制は整備されているか。	4	学生の手引き、防災・避難訓練 実施要項（避難型）、防災・避難訓練 実施要項（実践型）
6-3	実習室には検査に必要な設備が整備されているか。	4	施設使用割当て表、教育機器備品管理台帳、予算書
6-4	動物に協力してもらえる実習室 及び 必要な動物 が備わっているか。	4	施設使用割当て表、動物管理台帳
6-5	自己学習に必要な図書室 ないし 図書スペース 及び コンピューター が利用できる環境が整備されているか。	4	校舎案内データ、図書管理台帳、学生ラウンジ・図書室 利用規定
6-6	学校の施設や備品等は、定期的に管理・点検されているか。	4	修繕・備品等 中長期計画データ、予算書
6-7	実習室等の学校施設や設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか。	4	施設使用割当て表
6-8	海外研修制度はあるか。また、その際の学生への指示・教育は十分に実施されているか。	4	海外研修 報告・改善書（2023年度）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【6-8】(4/4評価) について、エビデンスを一部変更することを提案した。

7. 学生の受け入れ募集		評価	エビデンス
7-1	学生募集活動は適正に行われているか。	4	学校案内書・募集要項、入試・学費説明会 説明PP、情報公開（様式4、プライバシーポリシー）、入試結果リスト（順位付け）
7-2	学納金は妥当であるか。	4	情報公開（財務）、学費の比較資料（同分野 他校の学費情報 等）
7-3	特別な対応が必要な学生への対応を定め、共有しているか。（身体的事項や精神的事項等）	4	入学相談室対応マニュアル、留学生対応マニュアル、進学相談カード（カルテ）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みが行われている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム③ 【監査を受けた者】チーム②
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。

8. 財務		評価	エビデンス
8-1	中・長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4	学校HP（情報公開ページ 画面の画像）
8-2	予算や資金収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	監査報告書、理事会・評議員会 議事録、情報公開（財務）
8-3	財務について、会計監査が適正に行われているか。	4	監査報告書
8-4	財務情報の公開の体制整備はできているか。	4	財務情報公開規程、学校HP（画面の画像）

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。

9. 教育の内部質保証システム		評価	エビデンス
9-1	法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がされているか。	4	監査報告書、就学支援新制度 機関認定確認書、文書管理規程、就学支援新制度 機関認定 対象校一覧（文科省）
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3	個人情報保護規程、個人情報保護規程に関するSCのまとめの掲示物
9-3	自己点検・評価の実施と課題の改善を行っているか。	4	自己点検・評価委員会 議事録、学校関係者評価 報告書
9-4	自己点検・評価の結果を公開しているか。	4	情報公開（自己点検・評価の報告）
9-5	教職員の職務記述書を作成し、これらを適切な期間ごとに見直ししているか。	4	職務記述書、教職員面談記録（SCシート）
9-6	評価目標 及び 想定される評価範囲 を整理し、記述できているか。	4	授業参観評価表 一覧、授業参観評価表（講義形式・実習形式）
9-7	教職員に対する評価方法・スケジュール・評価の仕方等が書類として文書化されているか。	4	学校運営指針（GB）、学園 年間スケジュール、教職員 SCシート

【 自己点検・評価 】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【 内部監査 】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム① 【監査を受けた者】チーム③
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【9-1】(4/4評価) について、エビデンスを一部変更することを提案した。
 - 【9-2】(3/4評価) について、評価基準の再検討等を踏まえて評価を改めるとともに、社会等から求められる個人情報の保護に関する取り組みをより一層注力することを提案した。

10. 社会貢献・地域貢献		評価	エビデンス
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励や支援、地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む。）の受託等を積極的に実施しているか。	4	生涯教育・社会貢献計画、リアル体験教室スケジュール、ムサントミヨの分譲依頼書

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
 - 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
 - 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
 - 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム①
 - 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
 - 全項目 について、適切な評価が行われている。
 - 【10-1】(4/4評価) (IAC大宮校) について、エビデンスを一部変更することを提案した。

11. 国際交流		評価	エビデンス
11-1	留学生の受入れや派遣について、計画的に活動するとともに、在籍管理等において、適切な手続き等を行っているか。	4	留学生用募集要項、入国管理局への報告書

【自己点検・評価】

- ① 課題 及び 今後の改善方針・取り組み について
→ 全ての項目 について、適切な取り組みがされている。引き続き、各取り組みの質の向上に取り組む。
- ② 特記事項
→ 特になし。

【内部監査】

- ① 参加者名 および 実施日時・場所 について
→ 【監査を行った者】チーム② 【監査を受けた者】チーム③
→ 【監査日時】2024年6月4日(火) 12:30 ~ 14:30 【場所】IAC東京校 会議室
- ② 監査結果
→ 全項目 について、適切な評価が行われている。

■ 狩野 幹也 氏 (狩野動物病院 院長)

【 企業等評価委員 】

- 近年は就職を希望する学生も多く選抜をしなければならない状況になっております。そのような状況の中、何をもって採用するかという話ではあるが、最終的には、「一緒に働きたいか。」、「チームで働けるか。」、そして、今すぐく大事にしていることは、「正義感や道徳観や倫理観を大切にしているか。」ということである。今は複数名の就職希望者がいる場合は、複数回の面接を行ったり、人間性がわかるような変化球のような質問をするときもあり、未永く活躍できる人材を確保することに努めている。
一方で、就職先でのやる気が満ち溢れている学生にも気を付けて採用活動を行っている。「どうしても二次診療で働きたい。」などの大きな考え方や先入観が膨らみすぎていると、逆に、自分たちの考えと一緒に協力して考えられる人材に繋がるかが心配になることがあるからである。
- 現在、多数の教育機関で就職説明会などを行っているが、学校での成績は採用判定要素に大きく加味せずに人間性をとても重視している。例えば、こんな事態が起こった際の回答や正義感を問うような質問を面接で行ったりするときもある。
- 大学生も競争相手になっていることも対策する必要があると思慮する。先日、驚いたことに、看護系大学出身で進学校の高校出身の学生がおり、あえて獣医師ではなく愛玩動物看護師を選択する学生がいた。このような考えを持つ者が増加していくことも予想される。また、働いている現場にぜひ見学しにきていただきたいと思います。

■ 太田 宗雪 氏 (株式会社 EDUWARD Press 代表取締役社長)

【 企業等評価委員 】

- コロナ禍もあり、コミュニケーションを取ることが難しい時期があったかと思うが、貴学園の考え方を全教職員に浸透しているご苦労が推察される。
- 動物分野をルーツにしており、動物業界だけを歴史長くやっている強みをどれだけ全教職員が理解しているかも大切になってくることと思う。
- 出版社の場合は、日本語を大切にす文化もあり、目上の人への話し方などの立場の違う方へのコミュニケーションを育てることを大切にしている。
- グループ学習や学年を跨いでの交流とういうのも大切な機会ではないかと考える。
- 【3-10】の エビデンス について、VN養成所とは何を指すのかをご教示いただきたい。
→ (下園僚章) ご説明に至らぬ点がありましたこととお詫び申し上げます。愛玩動物看護師養成所のことを指しております。愛玩動物看護師の英語名が、Veterinary Nurses for Companion Animals と言われており、その英略称を用いております。なお、本報告書に記載しているエビデンスの資料名は、本校の所轄官公庁とのやり取りにおいて使用している文書名をそのまま記載しております。

■ 國分 達夫 氏（東京都立 晴海総合高等学校 元校長）

【 高校等評価委員 】

- 【3-6】「適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか」について、授業力の向上は教員にとっての永遠のテーマである。学生が授業評価をすることが目的ではなく、評価結果をどう学校が活用していくかが大切である。都立高校の事例では、管理職は年間3回は授業見学を行い、フィードバックの面談を行う話も伺っている。知人に専門学校の校長がいるが、その者の職務内容は授業を見て回ることであるほどに、授業力の向上をテーマとして重要視している学校もある。評価結果をどう活用していくかの方策まで具体的に方向性があると説得力が増すと思慮する。
- 【4-3】「入学者に対する卒業率」について、数字だけで言えるものではないと現場にいる者の意見として考える。退学理由は、それぞれの個別の事情があり、きちんと説明ができるものであれば、4評価の指標である95%という数値基準を満たさなくても適切な取組みがされていると言えるのではないかと考える。
 - （下藺恵子）数値基準だけではなく、退学内容や卒業率向上に向けた様々な取組みを本校でも実施しているので、内容を重視した評価を行うことも学園として検討して参ります。
- 【7-1】「学生募集活動は適正に行われているか」について、具体的な高い目標があるとお話されていたが、できる限りの範囲でその内容をお聞かせいただきたい。
 - （吉川）より意欲や熱意の高い入学者を集めることを目標に、現状に満足することなく、入学選抜試験で確かな見極めができるような入学願書数をいただけるに数値目標を設けている。
- 【10-1】「社会貢献・地域貢献」について、地元の小学校と連携して教育を行っていることは大変素晴らしい取り組みであると考える。

■ 齊藤 勉 氏（多摩地区高等学校進路指導協議会 顧問）

【 高校等評価委員 】

- 【11-1】「留学生の受け入れ」について、多摩地区での専門学校の状況を見ても避けて通れない状況であり、年々増えている傾向のお話も伺う。特に、介護福祉分野の人材においては現状の需要に対応ができない動きがある。日本語学校と専門学校との連携活動も盛んに行われているお話なども伺っている。
- 【4-3】「入学者に対する卒業率」について、入学後にアレルギーの発症が出てしまい中退となった仕方がない状況も見受けられた。中退者のその先を地域で支えるような仕組みや支援などが何かできないかを考えていきたい。
- 【7-1】「学生募集活動は適正に行われているか」について、高校との連携を行いつつ、引き続き、学生の見極めをしっかりやっていただきたい。
 - （吉川）現時点では、総合型選抜を本校では行っていない状況もあり、一般選抜よりも推薦選抜での志願者が募集活動の中心となっている。動物看護分野では、4年制大学の合格判定が3月ぎりぎりにされる動きに伴い、一般選抜での入学者が年々減少傾向にある。今まで以上に指定校推薦などでの受け入れが大切になるので、今後も高等学校との関係性をより強化していくことが大切と考える。

■ 義名 由梨 氏 (卒業生) (Dog Studio Maile Noa ドッグトレーナー)

【 卒業生等評価委員 】

- ドッグトレーナー学科について、学生時代はトレーニングに関しての基本部分が授業にあったものの、どちらかと言うとドッグスポーツに比重が大きかった印象がある。就職後に感じた点として、ドッグスポーツがやりたくて、しつけをお願いするお客様は少ない印象があり、やはり、家庭犬の基本となるしつけが大切であると考え。私を含め、卒業生を見ていると家庭犬のしつけについての対応や伝え方に苦慮する者が多いように感じる。現在の需要は家庭犬のしつけ教室と感じるので、より家庭犬の基本となるしつけに対する教育の充実を期待する。
- 企業の採用活動において中途採用にも力を入れている。卒業生への支援体制のお話の中で、「卒業生向け求人ページ」のお話を伺ったが、こちらの利用率や実際に就職まで結びついた事例などをお教えいただきたい。
 - (吉川) 数値として追うことは難しい現状です。こちらのページについては、卒業生の利用のしやすさや、企業側の急募に応えることを考慮し、誰でも情報閲覧ができるように ID や パスワードなどを設けずに情報公開をしている。そのため、採用に至ったかを図ることが現状は難しい状況である。現状は何か情報を求める目的で学校に来校する卒業生への支援が本校としてより親身にご対応できる取り組みであり、卒業生への情報発信のやり方については、今後も試行錯誤をしながら試みて参ります。
 - (下薗僚章) 少しお話が変わってしまうかと思うが、在学時、同級生で学生本人が就職を希望しなかったというケースがございますか。もしいた場合には、その背景がどのような内容だったかをお伺いしたい。
 - (義名委員) クラス内に就職を希望しない者が数名いた記憶がある。学んだ中で、動物業界が合わないと考えて他業界を選択した同級生や動物業界で稼ぎたい気持ちよりもイヌとの生活を優先した結果、仕事としての選択を行わなかった同級生がいたことを記憶にしている。
 - (齊藤委員) 例えば製菓分野でも、趣味の世界から仕事の世界に理解できる学生とその考えが出来にくい学生がいるというお話を伺ったことがある。動物分野の専門学校の中でも、系列校に動物以外の分野を持つ専門学校がありますが、以前、自分に動物分野が合わないと感じ、卒業後に他業界へ就職した事例があった。趣味の範囲なのか、仕事に持っていけるかは進路指導の問題でもあり、学生の見極めの問題でもなると感じる。

■ 黒田 侑加 氏 (卒業生) (サロン・ド・パロン 店長)

【 卒業生等評価委員 】

- 【4-1】「年度末における就職率の向上が図られているか」について、学生がインターンシップ実習に行った実習先企業への就職を希望しているが、その企業がその時点で求人募集をしていなかった場合、学校側からその企業に対しての何らかの就職アプローチをしているのかをお教えてください。
 - (吉川) 現状では、学生自身が企業側へ問い合わせをする指導を行っているが、学生がこのような問いかけを自らしていないことがある状況は課題に感じている。もし学校が企業の求人意向を受け取った場合は、インターンシップ実習に行った学生に対してだけに限定して伝えることは行っておらず、その場合は学生全体に情報公開することとしているので、あくまでも学生本人が企業へ直接聞き出すことのほうが就職に繋がる可能性が高いことを説明している。
 - (下薗恵子) 黒田さんも店長として勤務されておりますが、リクエストがあった場合は、採用を視野に入れることは可能ですか。
 - (黒田委員) その時の人員状況もあるので、正社員採用を新たに設定するのは難しいが、アルバイトなどでの検討であれば対応できる可能性があると考え。
 - (下薗僚章) 先ほどの同内容の質問ではあるが、在学時、同級生で学生本人が就職を希望しなかったというケースがございますか。もしいた場合には、その背景がどのような内容だったかをお伺いしたい。
 - (黒田委員) 私のクラスでは、就職を希望しない学生は少なかった記憶がある。若干名は福利厚生や安定性を求めて大きな企業へ希望した学生もいたと記憶する。

■ 佐藤 美紀 氏（保護者）

【保護者等評価委員】

- 保護者会終了後、担任教員とお話を希望されていた保護者の方が複数見受けられましたが、時間の都合などで十分な機会が得られなかったとも思う。保護者会当日でもその他の日でも構いませんので、希望者だけでも個人面談を実施できたらと希望する。

→（久下）いただいたご意見を今後の学校運営に活かして参ります。何かございましたら、保護者会だけでなく、いつでも本校までお問い合わせいただけましたらお応えさせていただきますので、お気軽にお申し出ください。

■ 大平 久美子 氏（保護者）

【保護者等評価委員】

- 【3-6】「適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか」について、國分委員もお話されていたが、授業参観後にその評価をどう活かしていくか、活用していく仕組みについてが気になった。
- 【10-1】「社会貢献・地域貢献」について、両校共に、地元の小学校と連携して教育を行っていることは大変素晴らしい取り組みであるとする。
- 【11-1】「留学生の受け入れ」について、齊藤委員がお話されていたように、現在は在留資格の問題もあるが、今後の留学生を取り巻く状況の変化によって、受け入れ体制の構築を検討せざるを得ない状況になった時に、学校としてどう動いていくのかという点にも関心を抱いた。
- 今回、初めて学校関係者評価委員会に参加する機会をいただきありがとうございます。学校としてこのような取り組みを行っており、様々なご意見や情報を得て勉強になりました。

- 専門的な知識や技術に加えて、本校に求める教育内容や注力すべき学生指導などがございましたらお教えてください。

(狩野委員)

- 愛玩動物看護師の専門的な技術を習得する教育内容は非常に難しく、講義形式の授業だけでは解決できない問題も多数あると考える。そのようなことから、卒後教育もやはり重要であり、就職先の現場と学校が協力関係を深め、より良い卒後教育ができれば良いと考える。また、在学時には動物の命を扱う職業であることをしっかりと意識していただくような倫理観などを養う教育を行うことを望む。やはり臨床現場では救えない命も多数あり、そのようなこともしっかりと理解しておいていただけるような教育を期待する。
- (下藺 恵子) 動物の生死についてを本校内で実経験させることは難しいが、講義形式の授業でしっかりと学生に教育するように取り組む。卒後教育の大切さについても、重要であると考えており、今後も動物病院をはじめ、各業界団体等との連携を引き続き強化していく。また、愛玩動物看護師の関連団体が主催する卒後教育の一環で、採血への取り組みを行ったが受講者数の伸び悩みの課題があると伺った。採血等の取り組み、卒後教育への体制等についてご助言をいただきたい。
- (狩野委員) 勤務する愛玩動物看護師の状況等を見ると採血はできていると捉えている。採血指導は責任者である院長等が率先して行うべきであると考え。採血については、院内でも、模擬教材を用いて学ぼうとしたが、現場で実践的な学びを経験することのほうが本人の意識も高く採血指導には向いていると考える。また、動物看護総合実習については、学校側と受け入れ側との事前の打ち合わせが大切と考える。病院ごとに実習期間で経験する内容の差異も薄まり、より均一的な実習を経験することに繋がると思慮する。
- (下藺 恵子) 頂戴したお言葉をしっかりと心に留め、動物看護教員にもしっかりと共有させていただきます。

(太田委員)

- 「学校法人シモゾノ学園の学生とはどのような学生であるか。」を問われた際に、貴校の教職員や学生はどのような回答をされるのか。また、貴校ではどのように意識されて言葉や行動に反映させていらっしゃるのか。ということを考え、歴史ある貴校だからこそその伝統と良さが伝わっていきとさらに良いのではと期待する。
- (今西) おっしゃる通りであり、全教職員が同じ方向を向いて教育に取り組むことが非常に大切なことと考えている。本校の「どのような学生を育成するか」については、「社会・企業等から高い評価が得られる人材」を1つの指針として設け、育成すべき要素を軸にした教育方針を全教職員が毎朝の朝礼時に唱和をすることで日々意識を心に留めるように取り組んでいる。
- (太田委員) 個性が集まっている集団であるからこそ、私たちが日々、対話や会話がしやすいような環境づくり、雰囲気づくりをするように取り組んでいる。

(國分委員)

→ 採用試験において重要視していることの問いとも関係することですが、面接の要点は、その職に対する資質・適性があるかの評価にある。それは、その職場において実際に行動できる力があるかどうかを評価する。そのためには、「将来の意向や抱負」だけをただ聞くのではなく、当人の「過去の行動」に焦点を当て、「成果と結びつく再現性のある能力」を的確に把握する必要がある。再現性のある過去の成果を見ることによって、当人が将来に生み出すであろう可能性を評価することができると思う。

貴校としては、この視点に立って、様々な体験を設定することが求められる。そこでの成功体験が、具体的であり、きちんと自分のものとなっていれば、必ず説得力を持つと考える。自分のものとするのは、容易なことではない。物事を深く考える力、また、物事を多面的に捉える力、それらをまとめる力など、総合的な人間力が求められる。ここでは、教員の大きな支援が必要であり、教員の指導力が強く求められると考えます。(教員採用試験官の経験および教員志望学生の指導経験より)

→ (下薗 僚章) 貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。教育内容に特化した外部の方々を交えた委員会においても、身に付けた専門的な知識や技術を卒業後に社会などにおいてどのように応用させアウトプットするかが大切であるとのご意見をいただいた。本校の教育でも、できる限り初対面の方と話しをする機会を創出する取り組みを行っており、一例としては、学年間や学科間でのコラボレーション型の相互学習授業を行うことで、情報の受け手と話し手の双方の立場を経験しながら、アウトプットの質を向上させる機会に取り組んでいる。このような教育を行うには、教職員の指導力の向上と学生への導き方等に対しての知恵や工夫を凝らす必要もあるため、教職員間で修練を重ねている。

→ (國分委員) 教員採用試験を行うなかでは、指導力だけではなく、対応力、将来性、人間的な魅力も評価している。「あなたの今までの人生で一生懸命に取り組んだことは何か。その経験を教員となってどう活かしていきたいか。」という問いを投げかけることによって、一人ひとりの人間的な魅力がより垣間見れる。また、「書かせること」が重要である。1つのテーマで論文を反復して書かせる経験を重ねることで自分自身の考えがより深くなっていくと考える。

→ (下薗 僚章) 書く経験を重ねることで、語彙力を高めることや、就職活動のなかで行う自己PRをまとめ上げる力の醸造にも役立つ意図がございますか。

→ (國分委員) もちろん語彙力の向上にも繋がりますが、考えが深まっていくことが大きな意味があります。表面的には上手く話すこともできる方も多くいるが、掘り下げる質問をした時には自分自身の考えを深くもっていると掘り下げる回答や意見がでてきて面白いと考える。

(齊藤委員)

→ 高卒生の就職希望者を採用している企業の採用理由の中には、頭でっかちではなく、素直に学んでくれるから企業側も教え甲斐があるからというお話を伺った。専門性を教えてこそその専門学校ですが、社会人となっても学ぶことに貪欲であり、砂が水を吸うように卒業後も就職先での指導や教育を受け入れる姿勢を養うことも必要と考える。例えば、将来的に動物業界以外の企業に転職しても、仕事に取り組む基本的な姿勢は、専門学校で育ててもらったと言ってもらえるような教育をされることを望む。

→ (吉川) 本校に寄せられる企業からの評価にも、お話を頂戴した「素直に学ぶ姿勢」を求める声は多数いただいている。インターンシップ実習や就職活動に取り組む頃までには、何事にも素直に受け入れる姿勢で臨むことが大切であると教育している。本校では、入学してすぐに社会人養成講座という授業を取り入れており、社会人としての基本的な姿勢を学び、人間力養成講座という授業との相乗効果を図りながら教育を展開している。以前には、一般教養科目として英語やパソコン実習を取り入れた時期もあったが、短い期間で身に付けるには時間を要することを踏まえ、現在は自分を正しく表現できること等についてを重視した教育を行っている。

→ (齊藤委員) 高校生を採用している企業は採用意欲が非常に高い。素直さに対して企業も教え甲斐があり、採用を強化している背景があるようだ。専門学校の視察を行うなかで、学校ごとに学生が行う挨拶にも大きな差があると感じられる。自分自身も専門学校を推薦する際には、社会人として必要なマナー教育等を行うことは付加価値として大切な要素である。

(佐藤委員)

→ 勉強ももちろんですが、それ以外の掃除、挨拶、言葉遣いなども厳しく指導していただいておりますので、ありがたく思っております。

→ (和知) 大変嬉しいご意見に感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、頂戴したお言葉をしっかりと心に留め、学生にとって実りある教育が行えるように引き続き質の向上に取り組む。

→ (佐藤委員) かつては家庭内での電話をとることも受け答えも稚拙なところもあったが、現在では様子を見てみると、学校での学びの成果を感じている。

(大平委員)

→ 自己肯定感を高められるような取り組みや個性を認められるような人材育成などを望む。

→ (小川) 本校でも大切な要素であると捉えており、人間力養成講座の授業科目のなかで自己肯定感を高めていく要素や個性を認めていく要素を取り入れた内容を教育に取り入れている。

→ (大平委員) 本意見を伺った背景として、娘の様子を見ていて、新たな学びに対しての不安や心配を抱える様子も少し見受けられたこともあったので、自信を持つ後押しの一声をいただけると励みになると思慮する。

→ (吉川) 学生の様子を見ていても大きな不安を感じる様子はありませんが、改めて教職員に共有をし、学生への自信を高める声かけに取り組む。

(義名委員)

→ 文章を書く力を養っていただきたい。企業によると思うが、企画書などの書類提出やメール対応などで文章を書く力を必要とする企業もあると考える。

→ (吉川) 本校でも課題としている要素である。専門学校として、まずは専門性に関する教育と、社会人としての心構えや資質を向上させる教育が中心となる。しかしながら、本校の学生においても、文章を書くことを苦手とする者も増加傾向であることも十分に認識しているので、現在は就職活動において論文試験が求められることの多い飼育系学科限定にはなるが、学生への小論文講座を希望制で実施している。今後も企業のみならずのご意見や学生を取り巻く状況等についても学内で十分に検討をしたうえで、できる限りの教育に取り組む。

→ (義名委員) 文章を書く力が乏しいことは読み取る力にも課題にも繋がり、お客様の真意や意図を汲み取れないことが原因でクレームに繋がる事例もある。小・中学校で学んだ内容を振り返ることだけでも大切であるをお話いただきたいと思慮する。

→ (下園 僚章) お客様の真意を読み取ることを実践できる場が少ない背景もあると思慮する。本校では、学生が学外実習やモデル犬オーナー様と接する機会をできる限り創出することに注力しているが、この点についてはさらに取り組みを良化できるように取り組む。

→ (國分委員) 文章を書かせることについては、自分の考えをきちんとまとめ、相手に伝えることを目的で書かせることを大切にしている。書かせることは、時間がかかり効率が良いとは言えないが、継続してやっていると劇的に変わる学生も見えたので大切な要素であると思慮する。

(黒田委員)

→ 特にございません。

- 服装・装飾品・毛髪などの外見について、本校では動物などへの安全配慮や就職活動などでの他者評価への影響などを授業内で学生に教育していますが、校則としては安全配慮以外のことについては特段の学生指導は控えており、学生個々の個性や多様性を重んじる指針を取っております。このことについて、率直なご意見や配慮すべき点などがございましたらお教えください。

(狩野委員)

- 外見だけで判断をすることは好ましくないと考える。しかしながらサービス業である側面もしっかりと理解していただき、飼い主様から信頼されるスタッフになっていただきたいと思う。そのためには自分に何が必要かをしっかりと考えていただきたいと思う。採用面接時にはあえて注意するようなことは致しませんが、試験に影響することはご理解いただきたいと思う。

(太田委員)

- 校則については、全て一気にでなくても、学生たちで考え、決めていくようなスタイルが望ましいと考える。それに合わせて、貴校の学生として、絶対に守りたい・守るべき1つもしくは一定のルールを考える機会を設けることができると良いのではと思う。

(國分委員)

- 貴校が掲げている「学生個々の個性や多様性を重んじる」方針に賛成です。
生き物を扱う職業ですので、安全への配慮をした外見はもちろんですが、社会人として様々な方からの信頼を得ながら、業務を遂行していく職業であると捉えますので、それに相応しいものであることが求められると考える。学生には、社会人としての自覚を育てる教育が求められる。

(齊藤委員)

- スーパーなどではレジ担当の服装や頭髪をある程度自由にする流れもありますが、車検場では油にまみれた手や汚れた作業着で車にさわって欲しくないとお客様のご要望があり、清潔感に大変気を使っているお話を伺った。動物の飼い主であればその思いはもっと強はず。清潔感のある、こざっぱりした服装や雰囲気は必要と考える。それがいわゆる身だしなみです。

「形」(かた)から入るのが高校の身だしなみ指導です。専門学校では個性や多様性の中にも職業人として何がお客様に信頼される身だしなみなのか、ファッション指導などを通じて自ら考える指導をすることが必要と思慮する。

- (吉川) 就職指導を行うなかで、通例で行っていた外見指導が現在の採用活動に向かう学生への指導として当てはまるかを考慮する機会として本質問をさせていただいた。本校の学生のなかに、現時点で個性を強く表現する学生が多いたることが起因であることではないことをご理解いただきたい。各委員のご意見の総括として、場面に応じた身だしなみを学生自らが考えて取り組む指導をしていくことがポイントであることを各委員のご意見を頂戴できたこと、本校の外見への考え方の相違がなかった確認がとれたことが収穫であった。引き続き個性を尊重しながらも場面に応じた身だしなみが学生自身で考えられる指導に取り組む。
- (狩野委員) 長くお付き合いをさせていただくなかで目立った学生がいた記憶はない。今後、前述のような学生が生じた場合においても、採用可否に繋がる直接的な要素に繋がらないかと思慮する。ただし、生命を扱う職業の特性として、信頼できる容姿であるかを来院者が見たときに、どのような評価をされるかは十分に理解していただきたいと思慮する。実際に過去にそのような事例があったのか。
- (吉川) 把握している限りで不利益を被った事例はない。懸念していることとして、大手企業の採用面接の事例で私服での来社を求められるケースもあった。ここ数年で変化も出始めているので再確認をさせていただいた背景である。
- (太田委員) 私たちの企業では、仕事の意図を理解してもらうことを大切にしている。仕事の相手が誰なのかを想像できるかで外見は変わってくると捉えている。服装については、できる限りではあるが、企業紹介等で掲載されている服装の写真を見て雰囲気を感じ取りやすい工夫を行ったりしている。
- (國分委員) 採用試験で直面した経験がないので難しいが、受け答えの内容が同じであっても、外見によって面接官側の受け捉え方が変わる可能性があることを思慮する。
- (齊藤委員) 服装については、高校側の見方とはなるが就職希望先で行う仕事内容の安全性を考慮し服装で取り組むことを厳しく指導した背景がある。服装については、万人に不快な思いを与えないということを観点に指導に取り組んでいる。現在の高校の教育現場では、服装に加えて整形やタトゥーへの指導の問題もあると伺っている。
- (吉川) 頂戴したご意見をしっかりと心に留め、引き続き学生自らが場面に応じた対応をできるような指導が行えるように引き続き質の向上に取り組む。

(佐藤委員)

→ 学生個々の個性や多様性を重んじる事は今の時代、とても良い事だと思う。学生たちも身だしなみや長いネイル、香水などの動物に危害や健康を損なう恐れがあることはしないようにすることは理解しているように見受けられる。

(大平委員)

→ 外見は自由としても良いと考える。配慮すべき点としては、清潔感を保つこと、香りに気をつけることは大切です。(ボディースプレー、クリーム、香水 など)

(義名委員)

→ 特にございません。

(黒田委員)

→ 動物に対して危なくないよう、爪の長さやネイルなどに関するぐらいの注意でしたので、自由に学校生活を送れました。特に困ることや、問題は無かったので今まで通りで良いと思う。

→ (今西) 現在の学生への指導している内容は、まずは動物への安全・配慮、自分自身への安全・配慮、相手に対する清潔感や不快感への配慮の3点を考慮している。講義授業への規制は設けていないが、実習時には、爪の長さ、香水等の匂い、動物の誤飲のリスクを考慮しアクセサリー類の着脱、髪の毛を留めることを指導をしている。上記を考慮していれば、特段の外見に対する規制は設けていない。学生の様子を見てみると、自分自身で考え就職活動等の状況に合わせて髪色を変化させている様子も見られるので自覚した上で個性を表現している様子が伺える。

→ (佐藤委員) 入学当初は髪色が明るかったが、周囲の友人たちも状況に合わせて髪色等も自分から進んで戻している話を伺っている。家庭内でも匂いに対する配慮を娘が自分自身で考えて生活している様子を見ていて、親として学校の指導が行き届いていることに安心する。

→ (大平委員) 動物への安全配慮が重要視されていることに安心する。

→ (義名委員) 勤務先である犬のしつけ教室では、私服で採用試験に来るように案内しており、そこでの動物への安全面を配慮した服装で来ているかの様子を見ている。また、通勤途中にその姿をお客様から見られている可能性も考慮することも大切であることを自覚することも大切である。

→ (黒田委員) 勤務先であるドッグサロンでは、中途採用の入社希望者も多く、採用試験段階での外見や髪色が目立つたとしても支障なく、採用可否の要素に繋がることもない。

- 本校の学生・卒業生以外も含め、新卒者を採用した際に、入社後にできると想定していたが、実際にはできなかった内容などがございましたらお教えてください。また、近年の学生・卒業生などについて、さらに良い評価が得られるにはどのようなことができるようになると良いのではないかとと思われるかをお教えてください。

(狩野委員)

- 学力的なことや技術的なことに関しましては最低限は必要ですが、正直なところ非常に重要とは考えていない。理解はしているができないことがあることは当然と考える。先述のとおり、現時点では、卒後教育が非常に重要であると考えている。臨床現場ではチームで仕事をするためにコミュニケーション能力を重要視している。自分の行動や発言が相手に与える影響などしっかりと考えられるような人物を育てていただくことを望む。

(太田委員)

- 状況に応じた挨拶の仕方が考えてできると良いかと考える。初めは誰かが教えてあげたり、このような場合はどう対応したい？と挨拶する側とされる側の互いの立場を交代しあって、できるとより自然にできるようになると考える。初対面の人との対話でも挨拶や笑顔を自然と出せることは良いことと考える。

(國分委員)

- 特にございません。

(齊藤委員)

- 特にございません。

- (下薗 恵子) 入学後の限られた期間のなかで、まずは学園の教職員がしっかりと良い見本・手本をウシロ姿で見せていくことによって、学生が卒業しても数年後に振り返った時に、参考になれるように取り組んでいる。人間力養成講座において、学生が自らが挨拶を率先して行える仕掛けや工夫を取り入れて教育を行っている。

- (今西) ハローカードという取り組みを行っている。学生が自ら率先して挨拶ができたことを教職員が確認した際にシールを1枚渡す取り組みを行っており、1年間で最低10枚獲得することを目標に学生は学校生活を過ごしており、シールを最も集めた学生に対しては全校学生の前で表彰して讃える取り組みを行っている。

- (國分委員) とても良い取り組みである。他校での実例も聞いたことがなく、初めて伺い驚いた。

- (齊藤委員) 他校でも挨拶の取り組みが抜きん出ている専門学校がある。とても大切な要素であるからこそだが、その指導と成果に至った経緯は気になっている。

- (下薗 恵子) 挨拶を通して、学生が動物業界はサービス業であることを実感し学生の成長に大きく繋がっている。引き続き学生の挨拶の意識向上に取り組む。

(佐藤委員)

- 若い人たちは職場などでの電話の受け答えができないと聞いたことがある。当り前のことではありますが、日々での暮の中で、言葉遣いや振る舞い方などを身に付けることが大切ではないかと考える。

(大平委員)

- 特にございません。

- (吉川) 電話の受け答えは苦手である。現在の学生が育ってきた時代背景も大きく影響していることも考えられるが、苦手意識を克服するには練習を重ねることが最も大切であると思慮する。また、就職活動のやり取りも変化しており、電話対応を全てお断りしている企業も増えてきており、メールでの連絡を求める企業もある。よって、電話も含めメールでの連絡のかけ方、文章の作成の仕方を指導することの必要性も捉えている。

- (今西) 加えて電話をする機会が少ないこともあり、学校をやむを得ず欠席・遅刻する場合の遅刻手段は、必ず学生本人が電話するよう指導している。学校生活のなかで電話をする機会を増やすため、引き続き保護者のみなさまへもご協力をお願いしたい。

- (大平委員) 敬語や丁寧語の遣い方を学んでいる様子を見ていて勉強になっているよう感じる。引き続きのご指導を期待する。

(義名委員)

→ こちらが指示していないことを、よかれと思って真似をして注意することが多々ある。

→ (今西) 人間力養成講座の授業のなかで「主体性を発揮できる」ことを注力する教育を行っている。経団連が発表している「企業が新入社員に期待する要素」に基づいて、教育に取り入れた背景があるが、これには、「但し、上長の許可を得ること」を含めた内容で教育をしている。可能性として、この上長の許可や確認を得ずに勝手にやってしまっていることが先述の事態に繋がっているかもしれない。許可を得ること、確認をすることを疎かにしないことを注力した教育を今後も行っていく。

→ (義名委員) トレーニング分野ならではの要素なのかもしれないが、学生時代に接したイヌと就職後に接するイヌでは、イヌを取り巻く環境も大きく異なる。そのような状況下のなかで、学生時代の経験や教員の様子が正しいと判断されて苦慮した事例があった。引き続き許可を得ること、確認をとることの重要性を伝えることが大切である教育をされることを期待する。

(黒田委員)

→ 問題犬や嫌々する犬を美容実習などで担当した際に、学生の時は先生に見てもらえば最終的にやってもらえるので良いのかなと思っていたが、過去の私自身も含めて新卒者がそのような犬を就職後も怖がったりしてしまい仕事にならないことがある。そのような犬への対処法やちょっとしたコツなどを学べる実践的な実習があれば良いと思う。

→ 自主性や学びたいという意欲、向上心のある学生は大事だと考える。

→ (和知) 嫌々するイヌを経験するためには、まずは美容実習時のモデル犬の登録頭数を増やすことでの機会を創出することが大切であると思慮する。イヌの頭数が減少している時代背景もあるので、引き続き新たな犬が教育活動に参加していただくよう努める。また、学生ができないイヌについては今までは教職員がお断りをしていた背景があったが、必ずそのような事態が発生した際には、トリミングの責任者に情報を集約し他の学科やクラスで美容実習が可能か否かを検討する仕組みに変更している。また、美容技術系の講義実習を通して、嫌々するイヌについての対処法を実際に施術している様子を教員がやってみせる指導を取り組みを行っている。

→ (黒田委員) ドッグサロンの現場では、イヌにやさしく声がけをする重要性を理解しつつも、定められた時間のなかで施術を終わらせること、やや強引にでも素早く終わらせてあげたほうが、かえって対象のイヌにとっても負担なく、施術を終わらせられることに繋がるので悩んだこともあった。また現場のなかでは、2人1組でトリミング施術を行うことはほぼないため、暴れているイヌを抑えることは1人で実践し他者の協力を得られない状況がある。学校において、1人でも安全に保定できて施術が行えるような内容の教育を取り入れることを期待する。

→ (義名委員) 学生時代の美容実習において、嫌々するイヌと対峙したことがあったが、ドッグトレーニング経験のある教職員にしつけのアプローチを踏まえたご指導をいただいた経験がある。例えば、美容実習のなかでも、しつけのアプローチを取り入れる実習を学科間で取り組むような方策を提案する。

→ (下薮 僚章) 頂いたご意見を踏まえ、今後の美容実習での取り組みに加えられるかどうかを検討する。

- 採用試験において、どのような点を重要視していच्छやいますでしょうか。また、それらについて、どのような試験を実施していच्छやいますでしょうか。お教えいただけることがございましたらお願いいたします。

(狩野委員)

→ 先述のとおり、臨床現場におけるコミュニケーション能力は非常に重要である。また、命を預かるための正義感や倫理観も重要と考える。この点をインターンシップ実習や採用面接にて確認できるように努力している。複数回の面接やより具体的なシチュエーションを想定したような考えていただく面接を実施している。

(太田委員)

→ 急な話題振りなどにも落ち着いて応えられたり話しを展開できる対話力、また、分からないことは分からないといえる素直さなどを重要視しており、学校の成績だけで判断しないようにしている。採用面接では、例えば、「明日、ピクニックや山登りにいく友達に弁当を作ってあげるとしたら、あなたはどんなイメージを思い浮かべて、どんなお弁当を作っていきますか？」などといったある意味で正解のないその人らしさを伺える質問をする。

→ (吉川) 採用面接における質問事項に、一見関係のないような内容を問う質問は増加傾向にある。対策として準備ができないことであり、希望者本人のコミュニケーション力が問われる傾向がある。

(國分委員)

→ 特にございません。

(齊藤委員)

→ 特にございません。

(佐藤委員)

→ 特にございません。

(大平委員)

→ 特にございません。

(義名委員)

→ しつけ教室では、インターンシップ実習で実際にイヌを触らせない所も多いと思う。ですが、当店ではイヌの扱いが一番重要と考えているのでインターンシップ実習の時からトレーニングに携わってもらい、なぜ当店ではそのような実習内容を取り組んでいるかを考えてもらっている。その際に、「イヌに触らせてもらえて楽しかったから就職したい」という理由だけを述べる学生には、基本的に内定を出していません。

(黒田委員)

→ 試験とまではいきませんが、基本的なブローを行ってもらうことが稀にある。当店では、ドッグショーや競技会に当店のオーナーを含めて個人的に参加する機会が多いため、勉強会やセミナーに参加することがいくつかある。強制ではありませんが、学ぶ意欲が高く、基礎的指導も素直に受け入れて伸びていってくれるような人を評価している。

→ (下薗 僚章) 相手の立場に立って物事を考えること。また、自信を付けていくことを慢心するのではなく自分自身を高めていく契機に繋げることは社会人としての大切な要素である。本校も入学式当日より社会人としての心構えを伝え意識の変革について、スタートダッシュをかける取り組みを数年前より行っている。

→ (義名委員) インターンシップ実習を終えた感想として、「たくさんイヌに触れさせてもらって楽しかった。」という声を聞くこともある。楽しかったで終えるのではなく、何が大切なことだったか相手側の意図を汲めることは大切な要素である。

→ (黒田委員) 就職後の様子を見ていると動物関係の仕事に従事していただいだけで入社されると日々をこなすだけで終わってしまう。一方で自分自身のなかに仕事や将来に対する目標があると意識も高く教える甲斐もあり、技術の成長速度も早いと思慮する。就職後も目的を持って仕事に取り組むことができる学生を輩出されることを期待する。

→ (下薗 僚章) 大変貴重なご意見に感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、身が引き締まる思いである。卒業や就職内定がゴールではなく、その先の目的・目標をしっかりと持たせる指導を引き続き取り組む。

■ その他のご意見・ご要望 等

(狩野委員)

→ 特にございません。

(太田委員)

→ グループ学習や先輩と後輩での学年や年齢を超えた学習をすることで、社会人になった際に必須となる上下、横、チームなどで行う業務体制に慣れておく練習をできるだけ重ねておけると良いかと提案する。

また、質問力を少しでも高める練習ができることを望む。どうしても受け身になりやすい者が多いと感じており、質問を考えると自体になれていない者が多いと考える。インプットした内容をアウトプットする際に、自分でしっかりと理解していないと相手に伝わるように話しができないことを実感することで、自身の理解度を高めるには分かった気になるのではなく、質問されそうなことも想定した理解度の高さが必要であることが認識できるようになると考える。そのような観点からも、先述に重なりますが、グループ学習や上下チームで役割を決めたり、逆の立場になるような練習は社会人になって役に立つものとする。

上述のようなことが身に付いていたり、身に付けられるように努力をできる学校であることが学校法人シモソノ学園であり、貴校の学生らしさとなっていくとさらに良い学校・学生になるのではと期待する。

→ (今西) ご意見をいただいたアウトプットすることの大切さは本校でも教育に取り入れている。一例として、学科間のコラボレーション授業を行い学生同士が互いに学んだことを相手に伝えることで理解度を深める授業を行っている。また学校間や学年間とのコラボレーション授業も取り入れており、相互間の教育の取り組みも行っている。実施後の学生の感想のなかにも、相手に伝えることの難しさや事前準備の大切さを振り返る声も届いており学校側の狙いが反映された結果が出ている。

(國分委員)

→ 特にございません。

(齊藤委員)

→ 特にございません。

(佐藤委員)

→ 保護者会において、テストや成績認定などの説明があり、理解することができた。また、各担任教員から、クラスの様子や学外研修でのこと、他学科のお話も聞けてよかった。保護者会終了後、担任教員とお話を希望されていた保護者の方が複数見受けられた。保護者会当日でも構いませんので、希望者だけでも個人面談を実施できたらと考える。

→ 今年のドッグスペシャリスト学科の1年生から美容実習がなくなったと聞きました。娘は2年生なので引き続き授業はあるので良いですが、ドッグスペシャリスト学科でも美容実習があった方が就職する際などに選択肢が広がるのではと考える。

→ 去年、娘は念願の海外研修へ行き、すごく楽しかった様で実施して頂けたことに感謝しております。色々な訓練施設での見学や体験など、現地の人とイヌのふれ合いはとても良い経験になった様です。保護者会で、海外研修の説明や報告をいただけると、行かせる側としても安心ができ、また参加者も増える様に思う。

→ (和知) 保護者会等における保護者との個別面談のご要望については、オンライン形式 等の開催も含めて今後学内で十分に検討していく。ドッグスペシャリスト学科における美容実習については、実施がなくなるとはおらず美容実習の回数が変更されており、シャンプーやブローといった基本的な美容技術は引き続き実施しているのでご安心いただきたい。回数が減ったこと背景は、近年の学生のドッグサロン施設へ就職する人数は減少し、一方で犬に関わる多岐にわたる職種への就職へ変遷してきていることに対応している背景である。海外研修については、貴重な提案のご意見を頂き感謝申し上げます。保護者会のなかで報告するよう次回の開催より調整していく。

(大平委員)

→ 初めて参加させていただき、様々な意見を聞くことで考え方や視野が広がった。貴校が学校をより良い学びの場にするために微力ながら、お力添えさせていただければ幸いです。お声掛けくださりありがとうございました。

→ (小川) 大変貴重なご意見に感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、身が引き締まる思いである。学生にとって実りある教育が行えるように引き続き質の向上に取り組む。

(義名委員)(※ 原則、原文転記)

→ 私自身、在学中はとても楽しく学ばせていただき他校の学生をインターンシップ実習などで見ている貴校の学生はいつもとても評価が高いです。ただ自分が貴校を卒業し、就職してから感じたことや貴校からのインターンシップ実習生・内定者を見て感じたこともあり、ドッグスペシャリスト学科(旧:しつけ・トレーニング学科)の内容ばかりの内容となってしまうのが昨年の学校関係者評価委員会のまとめを見て、ドッグ学科と飼育学科の意見がなかったので違う観点からの意見として少しでも参考にしていただければと思います。大変、差し出がましいことは存じますが、せっかくこのような機会をいただいたので少しでもより良い、生徒指導や技術向上のために役立てていただければ幸いです。

しつけ教室や訓練所、預託でのトレーニング施設など、すべてまずは基本のトレーニング(おすわり、ふせ、待て、社会化、トイレトレーニング、ハウストレーニングなど)が必要とされます。飼い主様に教え方を伝え実践させることも求められます。またラブラドル・レトリバーのようになんでも楽しんで取り組んでくれる犬が来ることの方が少ないです。吠えや噛み、シャイや分離不安にかしらの問題を抱えた子がほとんどです。自分を含め貴校の学生は基本トレーニングを自分が教えることは出来るけど人に教えることが出来なかったり、犬種や性格によっては通用しない。なぜこのような教え方をするのかという意味を分かっていない、ということが多くあります。しつけアドバイザーのライセンスがあると思いますので延長線上で人に伝える力を養えると更に良いと感じます。

→ (下菌 僚章) 貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。現在では、学校周辺のしつけ教室を運営する団体と連携をとり一般の飼い主様との対応や家庭犬と接する機会を設けており、引き続き本取り組みを行っていく。

インターンシップ実習にくる子、内定者からよく先生ごとで言っていることが違う。という声をよく聞き、あまり良い印象を持っていない子がいます。トレーニング方法はたくさんあるので人によって違うのは仕方ないことですが、生徒の前では統一したり、先生同士でもっと共有していただくのが良いのではないかと感じます。また貴校を卒業してそのまま先生になるという方が多いと思いますが先生方ももっといろんな企業に触れ、今のニーズなどをもって知ってもらえると良いのではないのでしょうか。

また生徒が特化して取り組みたい内容によって先生方の対応の違いを感じることもありました。放課後の時間、自分はオビディエンスやトレーニング方法について質問・指導をお願いしても実際に見てくれるのではなく少し口頭で伝えられただけで足早にディスクを練習している生徒のところへ行き、放課後の時間をほとんどそこに費やしていることに鼻頂のような疑問を感じたこともあります。

→ (今西) 貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。今現在のドッグスペシャリスト学科は、トレーニング分野の学びだけではなく、学生の入学時点での就職希望もしつけ・トレーニング以外のイヌに関わる多岐にわたる職業を望む声も増加傾向にあることに対応して学科名称を変更した背景がある。本校でも、基本的なトレーニングはどのような職業も関わる大切な要素として捉えているが現在の学生の意識としてトレーニングだけではなく、しつけやドッグスポーツ、飼育・健康管理等への意識が背景にある。トレーニングは必要であることを学生に伝えてはいるが、その部分が伝えきれていないことが落とし込みが不十分であると思慮する。引き続き学生への伝え方の方策を検討していく。また、しつけに関する試験内容は、自分の担当犬に対する内容ではなく、状況に応じたやり取りの内容に関する試験に切り替えているので、今後の輩出される卒業生に期待していただきたい。教職員ごとによって示す内容が異なっていることは本校でもそのような事態にならないよう一本化するように取り組んでいる。であるので、要因の1つとして専任教職員と兼任教職員との連携に課題があるのではと思慮する。教職員にも得意・不得手分野があるためご意見にあったような内容があったことはしっかりと反省し、今後の教育を運営するなかでしっかりと改善し取り組んで参ります。

お散歩の指導不足を感じます。貴校から職場が近いのでよくお散歩をしているのを見ますが、他犬反応を示す子が多いにも関わらず、対応が疎かだったり、インターンシップ実習にきた子では実際にトレーニング方法や対処方法が分かっていない子も多いとしばしば感じます。他犬反応やお散歩トレーニングはしつけ教室ではお悩みの方が大変、多く、もっと特化して取り組んでも決して無駄ではないと感じます。

以上となりますが上記のことはドッグスペシャリスト学科だけではなく他の学科にも同じような状況もあるのではないかと思います。私が学生だった頃から先生もだいぶ代わっているようですので自然と改善されている部分もあるかと思いますが、犬のための幼稚園やしつけ教室の入った総合施設が増えている今、他の施設でも自社と同じような人材を求めていると思えますし、もっと幅広い対応をしていただけると就活の幅も広がるのではないのでしょうか。

- (今西) 散歩についての必要性を本校でも十分に理解はしているものの、実施可能な場所が減少している状況がある。また、気象状況と学生が学校にいる時間とがマッチングしていないことがあるため、現在ではできる限りその経験ができるように学外実習等を設けて対応しているが引き続きの課題として可能性を検討していく。
- (下藺 僚章) 学校ホームページのなかで、実務経験をもつ授業担当者の一覧等を情報公開専用ページを設けている。ぜひお時間のある際にご一読いただければと思慮する。

(黒田委員)

- 特にございません。

- 狩野 幹也 氏 (狩野動物病院) 【 企業等評価委員 】
- (狩野委員)
- 院内での実習等を専門学校と連携している背景もありますので、お役に立てることがあれば、引き続き本校の教育に協力していきたい。
- (下菌 恵子) 大変嬉しいお言葉に感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、身が引き締まる思いである。頂戴したお言葉をしっかりと心に留め、みなさまにとって価値のある教育を着実に引き続き行っていく。
- 太田 宗雪 氏 (株式会社 EDUWARD Press) 【 企業等評価委員 】
- (太田委員)
- 2つの専門学校があるので各校の違いがあるが、先生方が連携されている総合力が強みであると思慮する。今後も貴校の更なる活躍に期待する。
- 國分 達夫 氏 (東京都立 晴海総合高等学校 元校長) 【 高校等評価委員 】
- (國分委員)
- 外部評価の役目とは少し厳しい意見をお伝えし、更に厳しく学内に浸透し共有していく流れをつくること大切であると思慮する。更なる貴学の発展に寄与できればと幸いであり、教職員の皆さまにより良い形で浸透することを期待する。
- 齊藤 勉 氏 (多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問) 【 高校等評価委員 】
- (齊藤委員)
- 本委員会のなかで、作文やマナー、身だしなみ、挨拶といった話題があがったが、高校と専門学校がそれぞれで何を行っていくのか。どのように連携していくかはこの先の課題であると感じる。
- 佐藤 美紀 氏 【 保護者等評価委員 】
- (佐藤委員)
- 娘をこの学校に通わせてよかったと改めて今回の委員会に参加させていただいたことで感じた。卒業まで少し期間はあるが引き続きのご指導をお願いしたい。
- 大平 久美子 氏 【 保護者等評価委員 】
- (大平委員)
- 今後とも学校としてより良い環境を整えていただいて、引き続き質の高い教育を行っていただくことを期待する。
- 義名 由梨 氏 【 卒業生評価委員 】
- (義名委員)
- 卒業して苦労していたことや入社やインターンシップ実習の訪ねてくる卒業生を見て感じたことをご意見と述べさせて頂く機会がありよかった。また、卒業後に変革していった取り組みをたくさん伺うことができたので引き続き卒業生をみることを楽しみにしている。
- 黒田 侑加 氏 【 卒業生等評価委員 】
- (黒田委員)
- 昨年に引き続き参加させていただいたが、昨年と内容もいろいろと変化しており、日々先生方がより良くするために課題を見つけ検討されていることを嬉しく思う。社会・企業等から高い評価を得られる人材を輩出されることを今後も期待する。